

グローバル展開の 大手小売業

Micro Focus Voltage SecureData Enterprise は、クラウド上の 700 万件以上の顧客情報に包括的なデータセキュリティを提供することで、デジタルトランスフォーメーションを支援します。

データセントリックセキュリティと サイロ化されたアプローチ

12,000 店以上の実店舗をグローバルに展開している同社は、デジタルトランスフォーメーションにも重点的に取り組んでおり、マルチチャネルアプローチでも成功を収めています。

従来の IT モデルでは、組織は階層型またはサイロ型のアプローチでセキュリティ管理を行います。このようなモデルでは、複数のアプリケーション、ネットワーク層、データベース、ファイルシステム、データセンターのストレージシステム間で機密データが流れます。データはそれぞれのレベルで保護されますが、インフラストラクチャ内でデータが移動するため、異なるレイヤーの間でセキュリティギャップが生じるのは避けられません。同社の CISO オフィスのプロジェクトマネージャーは、この問題について次のように説明しています。「レイヤー

「当社では平均して、2 週間ごとに新しいアプリケーションを Voltage に取り込んでいます。データはデフォルトで暗号化されており、必要なときにしか開示されません。これにより、リスクとコンプライアンスの体制が大幅に強化されました」

プロジェクトマネージャー
CISO オフィス
大手小売企業

内ではすべてのデータが暗号化されていますが、特権ユーザーアカウントが不正使用されたら、データ漏洩が生じる可能性があります。データフローの保護には SFTP を使用していましたが、交換されるファイルにはプレーンテキストデータも含まれており、送信元から宛先までのさまざまなステップで保存されるため、これもリスク要因でした。また、階層型のアプローチにはコストがかかるという課題もありました。レイヤーごとに別々のセキュリティソリューションが必要で、それぞれに異なる専門知識が求められるため、リソースの確保が複雑になるためです。Azure と Google Cloud を活用したクラウドへの全社的な移行に伴い、当社には包括的なデータセキュリティによる安心感が必要でした。セキュリティモデルをデータセントリックなアプローチに転換することで、こうした問題が解決できるだろうと考えました」

デフォルトでプライバシーを 保護する Voltage

システムベースのセキュリティ統合を必要とするポイントソリューションとは異なり、データセントリックセキュリティでは、信頼できない環境間でも信頼できる形でデータを交換できます。データがストレージから移動してアプリケーション内で使用されるまでのどの段階でも、一貫して暗号化された状態で使用できるため、完全なデータセキュリティが実現します。同社は、この市場でのいくつかの選択肢を評価した結果、Micro Focus Voltage SecureData Enterprise を導入し、データセキュリティの確保を通じてビジネス価値の向上に成功しました。



概要

業界

小売

所在地

グローバル

課題

お客様がコアビジネスに集中できるようにし、ハードウェアおよびメンテナンスの投資を削減しつつ、お客様のデジタルトランスフォーメーションをサポートすること

製品とサービス

Micro Focus Voltage SecureData Enterprise

主な成功要因

- 700 万件以上の顧客情報の包括的保護
- Google Cloud と Azure のクラウド導入
- チーム間の連携とデータに関する知識共有の向上
- 変化を続けるビジネス要件に対応するための市場投入期間の短縮
- リスクとガバナンスの体制強化

「Micro Focus と連携することにより、製品ライフサイクル中の特定のタスクに必要なデータ知識の共有が進み、セキュリティ、開発、運用、プロジェクトの各チーム間のコラボレーションを強化できました」

プロジェクトマネージャー
CISO オフィス
大手小売企業

「デフォルトでプライバシーを保護」を、企業のセキュリティアーキテクチャの中心に据えたことにより、データはシステムに入った瞬間から完全に暗号化された状態のままとなります。データ形式と整合性が、検証ルールも含めて、Voltage のフォーマット保持型暗号化 (FPE) を通じて保証されます。標準的な暗号化では、暗号化されたフォーマットで元のフォーマットより多くのフィールドが使用されるため、データが肥大化する可能性があります。その結果、システムパフォーマンスの問題が発生し、保守やサポートで必要以上の経費がかかる可能性があります。FPE を使用すれば、フィールドの一部または全部を暗号化しても、フィールドのサイズとフォーマットは変わりません。同社のプロジェクトマネージャーは、このことの重要性について次のようにコメントしています。「クラウド上に保存された顧客情報が 700 万件以上あり、それぞれに最大 10 個の暗号化フィールドが含まれています。FPE は、事実上あらゆる形式のデータをサポートしており、データプロセスやアプリケーションのユーザービリティと参照整合性を維持するためにデータベーススキーマを更新する必要はありません。例えばマーケティングキャンペーン中に電子メールを送信するために必要なフィールドだけを復号化するなど、フィールドを特定した複合化が可能です」

GDPR に完全準拠しながら市場投入までの時間を短縮

従来の復号化キーの管理は手間がかかり、コストがかかるものです。組織は、鍵データベースと、それに対応するハードウェア、ソフトウェア、およびデータベースを継続的に保護するために必要な IT プロセスを維持する必要があります。通常は、サイト間でキーを複製またはバックアップすることも必要です。Voltage Stateless Key Management ではそのような必要はありません。一元管理されたポリシーに従って、アプリケーションとそのユーザーが適切に認

証され権限が確認されれば、アプリケーションに必要なキーがその場でセキュアな形で生成されます。キーは必要になった時点で生成されるため、保存は不要です。そのため、運用と障害復旧が楽に行えます。

市場投入までの時間を短縮することは非常に重要で、サービス提供の向上は企業にとって重要な成功要因です。同社のプロジェクトマネージャーによれば、最近のシナリオを振り返り、IT アーキテクチャの中心に「デフォルトでプライバシーを保護」を据えることが非常に重要だったと述べています。「当社のマーケティング部門は、革新的なゲーム会社との協業によってポイントカードを持つ顧客を対象にした素晴らしいアイデアを生み出しました。私たちは、お客様が楽しんでいる間に、そのお客様に関する有用な知見を追加が得ることができます。通常であれば、アプリケーションの仕組みやそのアプリケーションが機密データを管理する方法を、データフローを含めて完全に理解する必要があります。しかし、Voltage を基盤として導入していることによって、サードパーティアプリケーションを迅速に統合することができます。そうしたアプリケーションは、非常にアジャイルなスタートアップ会社の製品であることが多く、データセキュリティが重要視されていない場合もあります。私たちはデータアクセスを自分で制御できるので、GDPR やその他の関連するデータプライバシー規制に完全に準拠しながら、グローバルプロセスをスピードアップできます。私たちはビジネスを加速させますが、それは完全にセキュアな手段によって行います」

ビッグデータとデータレイクの保護

すべてのデータは Hadoop データレイクに収集され、暗号化された状態で保存されます。データを使用するアプリケーションはそこからデータを取得し、復号化する必要があれば、Voltage が各データオブジェクトに格納されているキー識別子を介して認証

を処理します。データサイエンスチームとビジネスインテリジェンスチームが、Google Big Query を用いて、データの相関関係を処理し、データドリブンな意思決定を可能にします。エンドツーエンドのライフサイクルを通じてデータが明確に保護されており、幅広い環境、クライアント、プラットフォームと統合できることから、ビジネスアナリストは好んで Voltage を用いた業務を行っています。

アプリケーション導入の迅速化とチームコラボレーションの向上

同社の一部である銀行および金融部門では、機密性の高い顧客の金融データを保持しています。Voltage のデータセントリックなセキュリティ原則を中央レベルで適用することにより、個々のプライバシー影響評価 (PIA) にかかる時間とコストを節約できます。監査当局がデータセキュリティプロセスを完全に把握できるからです。

プロジェクトマネージャーもメリットを認めています。「データセントリックなセキュリティモデルの Voltage を導入した結果、迅速性が向上し、絶えず変化するビジネス要件にすばやく対応できるようになりました。当社では平均して、2 週間ごとに新しいアプリケーションを Voltage に取り込んでいます。データはデフォルトで暗号化されており、必要ときにしか開示されません。これにより、リスクとコンプライアンスの体制が大幅に強化されました」

同氏は結論として次のように述べています。「Micro Focus と連携することにより、製品ライフサイクル中の特定のタスクに必要なデータ知識の共有が進み、セキュリティ、開発、運用、プロジェクトの各チーム間のコラボレーションを強化できました。私たちは今、自信を持ってブランドイメージを語ることができます。『お客様のデータは全て暗号化されており、安全に保管されます』と」

お問い合わせ先：CyberRes.com

ソーシャルメディアはこちら



マイクロフォーカスエンタープライズ株式会社
jp-info-enterprise@microfocus.com
www.microfocus-enterprise.co.jp